

「シェイクアウト」で防災

記事を読んで考えてみよう

年 組 名 前

- ①シェイクアウトとは、どんな災害の時の訓練でしょう。
- a 火災発生時 b 地震発生時
c 台風発生時
- ②シェイクアウトはどの国で発案されましたか。
- a アメリカ b 日本
c イギリス
- ③シェイクアウトでは、どのような行動をするのでしょうか。
- a まず低く、口を覆って、外へ逃げる
b まず低く、傘を閉じて、家の中へ
c まず低く、頭を守り、動かない



地下街でしゃがみ、両手で頭を覆うシェイクアウトをする参加者一名古屋市中区で

小学校高学年以上

災害に備えるための新たな取り組みについて知ろう。

発展問題にチャレンジ

- ①シェイクアウトの実行委員会の考えのうちで、間違っているのはどれでしょう。
- a 多くの人に防災への関心を促す
b あまり協力してもらえないので活動を縮小する
c 災害に即応して命を守る動作を習慣づける
- ②実行委員会が課題としているのは何でしょう。
- a 海外からもアイドルグループを呼ぶ
b 訓練を義務付ける法律をつくる
c 不特定多数の通行人を巻き込む
- ③登下校中や授業中などに地震が起きた場合、どうすれば安全に避難できるか、家族や友達と話し合ってみよう。

発展問題の②は、答えを導き出さず、下の募集欄を見てください。抽選で賞品カードを贈ります。はがきで応募してください。

新聞わーくシート

参考の記事

いつ起こるか分からないのが地震などの大災害です。東日本大震災の後、あらためて日頃の備えや訓練の必要性に関心が高まっています。「シェイクアウト」という新しい訓練もその一つ。まだ始まったばかりで、課題もあるようです。どんな訓練でしょうか。

名古屋市中心部の商店街や企業が、大地震発生時に身を守るための訓練「シェイクアウト」を始めて三年目を迎えた。街中の通行者にも呼び掛け、一斉に身を守る体勢をとる試みだが、実際は素通りする人の方が圧倒的に多い。行動を浸透させるた

掲載 9月22日愛知県内版

め、試行錯誤が続いている。九月十一日午後二時、名古屋・栄の地下街などで、訓練を告げる館内放送に続いて、緊急地震速報の警報音が響いた。「立ち止まってください！ 頭を守ってください！」。地下街のクリスタル広場では、主催団体のメンバーや地元男性アイドルグループの誘導に従って、百人ほかが一斉にその場にしゃがみ込んだ。かばんで頭を押さえ、三分間じっと待った。だが、実際に取り組んだのは、全体の二割ほどだった。

シェイクアウトは「地震の危険から抜け出す」という意味。地震発生時に取るべき行動「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する訓練で、二〇〇八年にアメリカで発案された。手軽にできる防災行動として広がっているが、課題は不特定多数の通行人を巻き込む方策だ。

訓練をした実行委員会は「大地震が起きると多くの人はぼうぜんど立ち尽くす」と指摘。即応して命を守る動作を習慣づける意義を訴え「見知らずの通行者も参加してこそ効果的な訓練になる」と強調する。アイドルグループに呼び掛けを依頼するなど、参加を促すための試行錯誤が続いている。実行委は「動機がどうであれ、実践して防災に関心を持つことに意味がある」としている。

監修 野田恵美先生 (愛知県尾張旭市旭小学校)